



Project Center

Newsletter **Vol.12**

Graduate School of Economics
Kyoto University

プロジェクトセンター

Foreword

ご挨拶

京都大学大学院経済学研究科附属プロジェクトセンターは、(1)現代産業社会活性化のためのプロジェクト型研究を組織し、(2)教育技法・教材の開発、産業社会の分析などを行うことにより、広く経済学・経営学の教育研究の向上に寄与することを目的として、平成12年11月に設立されました。プロジェクトセンターは、専任および兼任の教員から構成され、その運営は「プロジェクトセンター運営協議会」が行っております。

プロジェクトセンターでは、上記(1)の目的を達成するため、「大学院教育研究高度化プロジェクト」を募集し、プロジェクトセンター運営協議会で審査の上、平成22年度に5件、平成25年度に1件、平成26年度に1件のプロジェクトを採択し現在に至っています。また、上記(2)の目的を達成するため、任期付きの若手研究者の積極的登用などを進め、現在6名の専任教員が採用されております。

学外との交流に関しては、各プロジェクトと関連のある研究者をリサーチ・フェローとしてセンターのメンバーに加えるとともに、先端的研究を行っている講師を招聘して各種セミナー等を開催し、プロジェクトの発展と普及につとめています。これらプロジェクトセンターの成果の一部は、経済学研究科の「ディスカッションペーパーシリーズ」として公表されています。

このように、プロジェクトセンターでは、産官学連携活動を視野に入れたプロジェクト型研究の強化に努めてまいりましたが、本研究科の従来型の人事採用制度にとられない弾力的な若手研究者の積極的採用にも大きな貢献を果たしてきました。平成23年度には、戦略定員枠で初めてのマネジメント・プロフェッサー教員を採用するとともに、すでに事実上先行して開始されているテニユア・トラック制を、平成24年度からは本研究科の新しい人事採用制度として活用しています。

今後とも、学内外の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

京都大学大学院経済学研究科附属プロジェクトセンター長

若井 克俊

Projects

プロジェクト一覧

スマート・グリッド・エコノミクス

プロジェクトリーダー 依田 高典

企業間関係と境界のマネジメントの
計量的・質的分析手法の研究

プロジェクトリーダー 若林 直樹

理論・実証を統合する
数理ファイナンス研究教育拠点形成

プロジェクトリーダー 江上 雅彦

経済動学研究プロジェクト
「新しい経済動学の研究と教育の拠点形成」

プロジェクトリーダー 佐々木 啓明

国際貿易に関する理論・実証研究の
拠点形成と大学院教育の高度化

プロジェクトリーダー 神事 直人

マクロ経済学に関する
理論・実証研究の研究教育拠点

プロジェクトリーダー 遊喜 一洋

学生相談プロジェクト

プロジェクトリーダー 北田 雅

スマート・グリッド・エコノミクス

プロジェクトリーダー 依田 高典（経済学研究科 教授）

プロジェクト研究概要

本プロジェクトでは、フィールド実験のランダムイズド・エクスペリメント手法を用いて、電力消費に関する個票データに基づいて、ピークカット・ピークシフトのトリートメント効果評価を行い、それら経済効果の日米国際比較を通じて、日本のスマートグリッドの経済効果の測定を行う。

研究方法

本研究の基礎となるフィールド実験のランダムイズド・エクスペリメント (Randomized Experiment, RE) 手法の学問的背景について説明する。米国エネルギー省では、連邦予算に基づくスマートグリッド社会実験のガイドラインを策定し、経済効果を正しく測定するために、産官学のテクニカル・アドバイザリー・ボードを立ち上げ、RE社会実験を推奨している。RE社会実験は既に開発経済学や労働経済学の分野ではセルフセレクトション・バイアスを排除して真のトリートメント効果を得るための必須なツールとして定着しているが、今後、大規模な産業政策へも適用が求められていくと予想される。

期待される成果

研究のカバーする範囲は、経済産業省が現在、推進しているスマートグリッド国内実証プロジェクトの個票データを用いて、①時間帯別料金・ピーク料金・オフピーク料金などのダイナミックプライシング、②電力消費の見える化など、情報提供を主要としたトリートメント効果である。また、どれだけの①総電力消費量削減、②電力消費デマンドピークカット、③電力消費デマンドピークシフトがあったかを定量的に測定する。こうした経済効果をもとに、電力不足が懸念される日本経済においてどのような料金体系を作れば良いのか、有用な需要弾力性情報が得られる。小売り全面自由化や発送電分離など、将来の電力産業の規制改革において、スマートグリッドを活用したデマンド・レスポンスの経済効果は事業者・政府の双方にとって貴重な参考資料として活用される。

環境省ナッジ事業

2019年度、依田 高典 京都大学教授（事業代表者）、伊藤 公一朗 シカゴ大学准教授（海外アドバイザー）、北川 透 ユニバーシティカレッジ・ロンドン准教授（海外アドバイザー）の研究グループは、環境省の委託事業として、boost technologies 株式会社やロバスト・ジャパン（株）と協働して、世帯の節電・省エネのフィールド実験に取り組んでいます。2019年度冬期には、来年度以降の実証事業の大規模な展開を見据え、7日間の「無理せず楽しく節電!DAY」プロジェクトを企画・運営し、協力小売電気事業者の需要家約700世帯を対象に、報酬（リベート）の提供が節電行動に与える効果を検証するための実証実験を行いました。

プロジェクトメンバー

リサーチフェロー

伊藤 公一朗

(シカゴ大学公共政策大学院ハリススクール Associate Professor)

牛房 義明(北九州市立大学教授)

学外研究協力者

田中 誠(政策研究大学院大学教授)

後藤 励(慶應義塾大学准教授)

王 文傑(広島大学特任助教)

村上 佳世(神戸大学特命講師)

企業間関係と境界のマネジメントの計量的・質的分析手法の研究

プロジェクトリーダー 若林 直樹（経済学研究科 教授）

プロジェクト研究概要

本プロジェクトは、企業間システムにおけるイノベーションについて企業経済学、経営学、会計学において共通の学際的な課題である企業間関係における「境界のマネジメント」という視点から、そのメカニズムを分析・解明しようとするものです。企業が「境界をどのように設定し、境界内と境界外で要素間の相互作用をどのように制御するのか」は日常の精算分業だけではなく、社会的なイノベーションから見ても興味深い分析です。2009-11年度までは、生産活動とその革新の成否を大きく左右する要因となる。自動車、バイオテクノロジー、サービスの三つの産業を主たる題材として実証分析を行なってきました。

今年、企業間関係と企業境界の経営学的な理論研究をベースにしながら、関西バイオクラスターの持つ地域の組織間ネットワークと研究開発能力の特性について分析を行っています。関西地方は、バイオテクノロジーの研究開発の面に於いては、本学や大阪大学、理研をはじめとした世界最先端の研究機関だけではなく、製薬、生化学、食品産業などの産業が集積しています。「関西バイオクラスター」は、そうした面で、日本有数のバイオテクノロジーのクラスターであり、研究開発だけではなく、産業集積の面でもトップクラスです。関西バイオクラスターを事例にしながら、日本のバイオクラスターが持つ地域的な研究開発能力（Regional Capabilities）について、産官学の研究開発ネットワークの構造的な進化とそこにおける知識移転のメカニズム、そしてその事業化を支える産業のネットワークについての研究を行っております。

2000年代に於いて、欧州だけではなく、米国の一部でも、いわゆる「シリコンバレー複製政策」という産業クラスター政策のあり方が、それぞれの経済の事情いわゆる制度的文脈を無視して進められたために、限界が指摘されつつあります。日本においても、ハイテク起業については、研究者の少ないスピノフ、低い起業意欲、系列的な取引の比重の高さ、世界的に展開しつつある新規の研究開発分野への参入の低さなどの様々な経済制度上の特徴が指摘されつつあります。こうした制度的な違いを意識しつつ、バイオクラスターにおける産官学の組織間ネットワークのあり方、その協働の経済的なメカニズム、そしてその成果について国際比較の観点から研究しております。

研究方法

1. 年数回の研究会先端的な研究者、実務家、政策当局者等を招き、定期・不定期のセミナーを実施する事で交流拠点を形成、問題意識を共有し、研究活動の成果を発信しています。
2. 国際的な調査による比較研究米国サンディエゴ、リサーチ・トライアングル、ウィンスコンシン州マジソン、英国ケンブリッジ、スコットランド、ベルギー、ドイツのミュンヘン、フランス・ストラスブール、台湾の台南リサーチパークなどの訪問調査を行いつつ、関西バイオクラスターの持つ産官学の組織間ネットワークの特徴について国際比較しております。
3. 国際的な研究ワークショップ、研究学会への参加欧州組織学会、アジア経営学会などの各種学会や、ワシントンのUSIJセミナー、ストラスブール大学経済研究所（BETA）での国際セミナー、ICEMS（京都大学幹細胞研究拠点）での国際ワークショップに参加しながら、国際的なバイオテクノロジーの研究者との研究交流を進めています。なお、一部成果は、日本経済新聞、読売新聞などの紙面や、先端医療振興財団、四国経済連合会などの一般セミナーでも発表しております。
4. 東京工業大学の仙石先生と密接な協力関係を持ちながら、バイオテクノロジーの先端的な研究拠点の活動について研究を進めています。
5. 「企業境界」に関する企業理論研究者との協力企業境界に関わる理論研究者との協力を持ちながら、理論的な面からの考察を行っています。

協力する科研費プロジェクト

次の科研費プロジェクトに関係しながら進めております。

1. 「関西バイオクラスターにおける研究開発ネットワークの構造進化と事業化能力の国際比較」（文科省科研費基盤（B）／研究代表者：若林直樹／2010-2012年／課題番号22330114）
2. 「日本型企业間分業の変容と日本企業の競争力」（文科省科研費基盤（A）／武石彰 京都大学経済学研究科教授代表／2012-2014年／課題番号24243046）
3. 「バイオテック企業の経営状況及び経営環境の網羅的調査と地域・分野間比較」（文科省科研費基盤（B）／仙石慎太郎 東京工業大学准教授代表／2014-16年／プロジェクト番号26301022）

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

- 武石 彰(京都大学教授)
- 梶山 泰生(京都大学教授)
- 依田 高典(京都大学教授)

学外研究協力者

- 仙石 慎太郎(東京工業大学准教授)
- 中本 龍市(九州大学准教授)
- 山田 仁一郎(大阪市立大学教授)
- 稲垣 京輔(法政大学教授)

理論・実証を統合する数理ファイナンス研究教育拠点形成

プロジェクトリーダー 江上 雅彦 (経済学研究科 教授)

プロジェクト研究概要

ファイナンス工学、行動ファイナンスは数理的アプローチにより目覚ましい進歩を遂げている。一方で様々な領域（ミクロ・マクロ経済学、制御理論、ゲーム理論等）との積極的な交流を通じて、常に新しい問題意識を持ち、問題解法を可能にする数理的手法の習得なくしては先端的研究を推進することは難しくなっていることも事実である。そこで本プロジェクトでは、各々の分野の専門家との意見交換、共同研究を積極的に行うことをサポートし、本研究科における研究推進を目的とする。また数理ファイナンスは、例えば派生証券の価格付け・投資家の市場行動を分析対象とすることに鑑み、実証研究を同時に進行させ、理論・実証を統合する形で研究教育拠点の確立を目指したい。

研究方法

1. 先端的な研究者、実務家、政策当局者等を招き、定期・不定期のセミナーを実施する事で交流拠点を形成、問題意識を共有し、多方面から問題解決を図る。この関連で21年度後期に経営管理大学院の協力のもと、「金融工学G Pセミナー」を既に実施している。（内外の研究者を8名招聘）
2. 実証研究をすすめるために金融機関からリサーチフェロー・博士後期課程編入を受け入れ、共同研究および研究指導をおこなうことで実務家のニーズを把握する。またマーケットデータベースの構築を図り、在学中の本学大学院生に対しても幅広く研究課題をオファーしていきたいと考える。
3. 教育面に関しては数理的な要素が強い分野であるため、講義等によって、バックグラウンドの異なる学生（学部・大学院生）に対し一様な成果を達成することは容易ではない。ひとつの方策として、レクチャーノートを可能な限り標準化（準備が不十分な学生に対しては補助教材を整備）し、講義の難易度レベルおよびクオリティを一定に維持したいと考えている。

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

若井 克俊(京都大学教授)

Rusudan Kevkhishvili(京都大学講師)

リサーチフェロー

重田 雄樹(東京経済大学准教授)

学内研究協力者

原 千秋(京都大学教授)

学外研究協力者

関根 順(大阪大学教授)

敦賀 貴之(大阪大学教授)

経済動学研究プロジェクト

「新しい経済動学の研究と教育の拠点形成」

プロジェクトリーダー 佐々木 啓明 (経済学研究科 教授)

プロジェクト研究概要

経済学が始まって以来、「経済成長や景気循環の分析」は、経済学の最重要テーマであり、理論経済学の核心的研究である。経済理論は、現実の経済社会の要素をモデル化し、その本質を捉えることを目的としている。本プロジェクトは、新古典派や非新古典派といった学派の枠を超え、多様な学派の経済理論の存在を前提として、経済理論および現実の経済社会を重視し、「経済社会の本質を解明すること」を目指し、「現実の経済現象を的確に捉えた経済動学理論のモデル構築」に挑む。

プロジェクト・メンバーと学外研究協力者との共同研究を通じて、「新しい経済動学理論の構築と発展」を目指し、研究拠点の形成を図る。さらに、大学院生に対して、当該分野の研究に必要となる分析手法の教育を行う。その一環として、国内外の研究者が参加するセミナー・研究会を開催し、最新の研究成果に触れる機会を提供する。また、大学院生が研究報告を行う機会を提供する。

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

岡原 直人(京都大学博士後期課程)

リサーチフェロー

小川 翔吾(横浜国立大学講師)

学外研究協力者

大野 隆(同志社大学教授)

黒瀬 一弘(東北大学准教授)

藪田 竜之介(佐賀大学准教授)

吉田 博之(日本大学教授)

国際貿易に関する理論・実証研究の

拠点形成と大学院教育の高度化

プロジェクトリーダー 神事 直人 (経済学研究科 教授)

プロジェクト研究概要

我が国は伝統的に国際貿易論の分野において優れた研究者を輩出してきており、現在でも世界的に見てこの分野の研究が最も活発に行われている国の一つである。このことは、我が国がエネルギー等の天然資源の多くを輸入に頼るとともに、輸出が国内経済の牽引役となっているなど、国際貿易が我が国経済において重要な役割を果たしていることと密接に関係していると考えられる。

これに対して、本研究科は国際貿易論の分野で国際的に活躍できる人材を恒常的に育成できる機関となるポテンシャルを有しており、実際にそうした機関となる意義は大きいと考えられる。そのためには、当該分野で最先端の研究を行うとともに、大学院教育のあり方を改善していくことが求められる。

そこで、本プロジェクトは、理論研究と実証研究の両面から国際貿易論の最先端の研究を行うとともに、大学院生やPDらの若手研究者が国際的に活躍できる力を養うための教育プログラムの開発を行っていくことを目的とする。

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

岩本 武和(京都大学教授)

新宅 公志(京都大学ジュニアリサーチャー)

中川 遥(京都大学博士後期課程)

学外研究協力者

阿部 顕三(中央大学教授)

中西 訓嗣(神戸大学教授)

リサーチフェロー

鎌田 伊佐生(新潟県立大学教授)

田中 鮎夢(青山学院大学准教授)

阪本 浩章(神戸大学准教授)

マクロ経済学に関する理論・実証研究の研究教育拠点

プロジェクトリーダー 遊喜 一洋 (経済学研究科 准教授)

プロジェクト研究概要

本プロジェクトは、現代のマクロ経済学の急速な進歩にキャッチアップし、社会・学界に貢献する研究成果を目指しています。また、研究者や実務家との間との交流、意見交換、問題意識の共有を通じて、理論・実証研究の両面から本研究科のマクロ経済学の研究推進拠点を形成することも本プロジェクトの目的です。

研究概要

本プロジェクトは、マクロ経済学における応用分野（財政・金融政策、経済成長、経済危機等）の領域について、政策的インプリケーションを提示することを目的にプロジェクトを遂行しています。とりわけ、ミクロ・マクロ両面からのデータの理解を基礎として、観察されるマクロ経済データのパターンを解明する理論モデルの構築等に重点を置きながら、研究に取り組んでいます。また、絶えず変化にさらされているマクロ経済を様々な観点から把握するため、国内外の研究者との交流、意見交換、問題意識の共有に積極的に取り組んでいます。具体的には、定期的に「応用マクロ経済学セミナー」を開催し、本学の研究者・大学院生、ポストドクターだけでなく、学外の研究者にも広く参加を呼びかけています。このような研究活動を通じて、本プロジェクトはマクロ経済学の研究・教育拠点形成に努めています。

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

西山 慎一 (京都大学教授)

学外研究協力者

敦賀 貴之 (大阪大学教授)

学生相談プロジェクト

プロジェクトリーダー 北田 雅 (経済学研究科 講師)

プロジェクト概要

文部科学省が昨年発表した平成27年度学校基本調査では、学部卒業者の就業年数別卒業状況のうち、所定の修業年数4年で卒業したものは、79.9%にあたる。すなわち、大学生5名に1人は、留年をしている状況にある。大学卒業者の就職率は現在70%前後であり、いわゆる就職浪人や資格取得等の特定の目的のため留年する者も存在すると考えられる反面、学習意欲の低下や学習能力の欠如等による留年者も多数いると考えられる。

これまで、本学経済学部では自学自習の精神より、長期欠席者や留年者、単位不足者の動向はほとんど感知しておらず、平成26年度の本学経済学部における留年者比率（留年者数 / 学生数）は、0.094であり、本学10学部のうち上位5番目となっている。今回、上記提言に沿う形で、留年率の低減策について検討を行うこととなり、その過程で留年する可能性のある学生を早期に検出する方法を確立することを目的とする。

研究方法

アンケートを行う。経済学部学部生が、全員受講することとなっている「入門演習」において、「学生実態調査」を記述式によって実施し、「学生生活実態調査」回答項目と単位取得率において、何らかの関連性がないか分析する。

期待される成果

未然もしくは早期に、長期欠席者や留年する可能性のある学生を検出する方法の確立

プロジェクトメンバー

部局内研究協力者

依田 高典(京都大学教授)

学外研究協力者

奥井 亮(NYU Shanghai Associate Professor)

企画戦略室・研究推進室

Seminar series

2021年度 経済学研究科公認セミナー開催一覧 (セミナー名五十音順)

日付	講師 (敬称略)	所属・職位	演題	参加人数(人)
アジア経済発展論研究会セミナー				セミナー計 248
6/3	高野 久紀	京都大学・准教授	"At the Right Time: Modifying Repayment and Disbursement Schedule in Microcredit (joint with Abu Shonchoy and Kazushi Takahashi)"	26
7/1	児玉 航	京都大学・博士後期課程	"What explains low demand on weather index insurance? Theoretical and empirical evidence from Zambia"	20
8/5	水野 広祐	インドネシア大学大学院環境学研究科教授、 京都大学東南アジア地域研究研究所名誉教授、 総合地球環境学研究所客員教授	「インドネシアの2020年オムニバス法と雇用・労働関係」	20
9/2	川上 桃子	日本貿易振興機構 アジア経済研究所地域研究 センター センター長	「中国ファクターの政治経済学」	34
9/16	Attavit Prachakseranee	京都大学・博士課程	"Capital Requirements and Lending: The Case of D-SIB Capital Buffer in Thailand"	14
10/7	Stefano Fiorin	Assistant Professor, Bocconi University	"Reporting Peers' Wrongdoing: Experimental Evidence on the Effect of Financial Incentives on Morally Controversial Behavior"	24
11/4	相澤 俊明	早稲田大学・講師	"Does the Conditional Maternal Benefit Programme Improve Infant Mortality in India?"	24
12/2	Sangyoon Park	香港大学・Assistant Professor	"State Certified Lemons: A Randomized Intervention on Agricultural Quality Certification"	21
1/6	関 麻衣	立命館大学・准教授	"Haste Makes No Waste: Positive Peer Effects of Classroom Speed Competition on Learning"	24
2/3	馬場 弘樹	京都大学・特定助教	「タイにおける都市施設のアクセシビリティ格差」	22
3/17	深尾 京司	一橋大学経済研究所・特任教授、アジア経済研 究所・所長	"Human Capital and Economic Growth in Japan: 1885-2015 (牧野達治、攝津齊彦との 共同研究) "	19
応用ミクロ経済学セミナー				セミナー計 69
5/7	門脇 諒	京都大学・講師	"Assessing the economic effects of early patent disclosure: how do you know that you are the pioneer?"	9
6/18	ホリオカ・チャールズ・ ユウジ	神戸大学・教授	"The nexus between long-term care insurance, formal care, informal care, and bequests: the case of Japan"	8
7/2	宇南山 卓	京都大学・教授	「家計収支データの課題とRICHプロジェクト」	7
7/16	中澤 伸彦	一橋大学・講師	"The Effects of Changing Mandatory Retirement Systems on Labor Supply: Direct Effects on the Old and Intergenerational Substitution Effects on the Young"	7
7/30	渡邊 正英	龍谷大学・准教授	"Ambiguity of scientific probability predictions and willingness-to-pay for climate change mitigation policies"	4
10/8	市野 泰和	立命館大学・教授	"The Effects of Flipped Classroom and Online Education" with Mai Seki	5
10/29	土居 直史	小樽商科大学・准教授	"Tax or Subsidy on Interregional Travel with Infectious Diseases"	5
12/17	西脇 雅人	大阪大学・准教授	"How Does Vertical Integration Affect Incentive to Collude? The Cement Cartel in the Chugoku Region, Japan"	5
3/23	坂口 翔政	Research Assistant, Brown University	"Paternalism, Autonomy, or Both? Experimental Evidence from Energy Saving Programs"	19

Seminar series

2021年度 経済学研究科公認セミナー開催一覧（セミナー名五十音順）

日付	講師（敬称略）	所属・職位	演題	参加人数(人)
会計学セミナー				セミナー計 69
5/8	市原 勇一 尻無濱 芳崇 井上 慶太	北九州市立大学・准教授 神奈川大学・准教授 東京経済大学・専任講師	「障害者雇用とマネジメント・コントロール・システムの関係に関する研究」	38
6/19	浅田 拓史	大阪経済大学・准教授	「管理会計進化論 -自律創造型コントロールの構築に向けて-」	31
7/10	藤井 敏輝	株式会社 至高 会長、稲盛和夫（北京）管理顧問有限公司 特別講師、重慶盛和稲謎文化伝播有限公司 高級顧問、山東徳朴企業管理諮詢有限公司 特別顧問、中興精密工業集団 顧問、京都大学経営管理大学院管理会計 研究員	「部門採算導入と報酬制度」	29
9/14	ファイナンス会計ワークショップ所属学生による（個人情報保護の観点から未記載）		「ESGスコアに基づいた最適PFの作成」 「金融機関のデジタル化 電子決済に向けた日中銀行の施策の比較研究」 「グループ経営における管理会計 ～日系グループ企業に必要な管理体制とは～」 「パーパス・ESG経営により企業価値を向上させる方法」 「決算業績と株価アクション 株式投資は、業績を当てたら勝てるのか？」 「管理会計上の振替価格への移転価格税制の影響とその対応についての考察」 「Word2Vectorに基づく企業のESG行動とESGレーティングとの実証研究」 「化粧品業界のブランド投資が企業価値へ与える影響の分析――日中企業を例として」 「SPACのワラントに関する会計基準」 「投資家センチメント及びESG格付けが株式の超過リターンに与える影響の実証研究」 「企業のR&Dは企業のパフォーマンスを向上できるか 2015~2019年中国の製薬企業を対象に」 「中小企業における管理会計 ～AI、ビッグデータ活用の展望～」 「M&Aにおける無形資産の評価」 「コロナ禍によるスポーツビジネスの財務への影響」 「口コミサイトのデータによる企業のスコア付け及び関連ポートフォリオの構築」 「大学発ベンチャー企業の業績パフォーマンスと管理層の経歴」 「ESGと銀行のパフォーマンス」	50
11/6	ゼルメス鈴木 寛之	京都大学・講師	「大家族主義的組織文化の下での経営アカウンタビリティ：京セラアメーバ経営の事例」	35
12/18	藤山 敬史	神戸大学・講師	"Asset impairment accounting decisions and employee downsizing in Japan"	12

Seminar series

2021年度 経済学研究科公認セミナー開催一覧 (セミナー名五十音順)

日付	講師 (敬称略)	所属・職位	演題	参加人数(人)
会計学セミナー (続き)				セミナー計 233
1/22	森脇 敏雄	北九州市立大学・准教授	"Investors' Behavior in the Pre-Earnings Announcement Period: Evidence from the Bid-Ask Spreads and Limit Order Cancellations"	7
2/12	飯塚 隼光	京都大学・特定助教	「シンプル管理会計の一般化可能性について」	31
経営学セミナー				セミナー計 582
6/30	酒井 健	東北大学・准教授	"Changing the uses of history strategically: A case of a Japanese company"	37
	Wang Tao	京都大学・准教授	"Navigating the maze: How professionals manage interdependence"	
7/6	Roy Suddaby	The Winspear Chair of Management and Professor of Entrepreneurship, University of Victoria and Washington State University	"Revising the Palimpsest of Elkhart Indiana: The Narrative Structure of Collective Identity Change"	131
7/13	Hyun-Jung Lee	Assistant Professor of Organisational Behaviour and Cross Cultural Management, London School of Economics and Political Science	"Cultures and Institutions: Dispositional and contextual explanations for country-of-origin effects in MNC 'ethnocentric' staffing practices"	51
9/15	Kai Chi (Sam) Yam	Associate Professor, National University of Singapore and Kyoto University	"How do employees, customers, and patients perceive and interact with robots and machines?"	80
11/1	丸山 泰史	Head of Tokyo Office, Egon Zehnder	"Leadership Selection & Development: Major Findings from 1000 CEO survey by EgonZehnder"	133
12/3	Sijia Zhao	Associate Researcher, East China Normal University	"Empowering leadership and organizational justice in new normal: The role of media richness and digital literacy"	74
	Jomel Wei Xuan Ng	Post-Doctoral Fellow, National University of Singapore	"Paradoxical effects of proactive followership on empowering leadership: A within-dyadic analysis"	
1/5	Toru Yoshikawa	Professor, Singapore Management University	"The Effects of Internal Institutionalization and Mimetic Pressures on Executive Gender Change: The Case of Chief Human Resource Officer"	51
1/26	安本 雅典	横浜国立大学・教授	「オープン技術のイノベーションとガバナンス：協調的な標準化における知識の戦略的マネジメント」	13
3/28	門傳 藍香	二松学舎大学・専任講師	「プラットフォームと小売企業の契約に関する理論的課題と今後の展望」	12
経済動学セミナー				セミナー計 582
4/15	小川 翔吾	京都大学大学院経済学研究科・博士後期課程	"Numerical Analysis of the Disequilibrium Monetary Growth Model: Secular Stagnation, Slow Convergence, and Cyclical Fluctuations (with Hiroaki Sasaki)"	20
	中尾 将人	千葉商科大学商経学部	"Purchase of Government Bonds by a Supernational Central Bank and Its Impact on Business Cycles (with Toichiro Asada)"	
	大野 隆	同志社大学経済学部	"Capital-Labor Conflict in the Harrodian Model"	
6/19	岡原 直人	京都大学大学院経済学研究科・博士後期課程	"The effect of interaction between capital and liquidity regulations on banks behavior"	42
	吉田 博之	日本大学経済学部	"Alternative monetary policy rules and expectational consistency (by Carlos Eduardo Iwai Drumond, Cleiton Silva de Jesus, João Basilio Pereira, and Hiroyuki Yoshida)"	
	藤井 聡	京都大学大学院工学研究科 京都大学レジリエンス実践ユニット長	「政府の経済財政政策に対する支援研究～ 政府モデルの検証と機能的財政政策実用モデルの構築～」	
	服部 茂幸	同志社大学商学部	「分裂するヨーロッパ・グレート・リセッションのヨーロッパ起源」	

Seminar series

2021年度 経済学研究科公認セミナー開催一覧（セミナー名五十音順）

日付	講師（敬称略）	所属・職位	演題	参加人数(人)
経済動学セミナー（続き）				セミナー計 582
7/16	中村 保	神戸大学大学院経済学研究科	"Stone-Geary type preferences and the long-run labor supply"	23
	溝淵 英之	龍谷大学経済学部	"On Generalized Diewert Functional Form"	
	國枝 卓真	関西学院大学経済学部	"Flying or Trapped?"	
10/3	岩井 克人	国際基督教大学・特別招聘教授, 東京大学・名誉教授	"Disequilibrium Dynamics of the Monetary Economy: A Micro-Founded Synthesis of the Wicksellian Theory of Cumulative Process and the Keynesian Theory of Effective Demand"	44
10/30	佐藤 秀夫	東北大学・名誉教授	"An Input Trade Model with Keynesian Unemployment: Bridging a Gap between Trade Theory and International Input-Output Analysis"	11
12/20	金本 圭一朗	総合地球環境学研究所・准教授	「マイクロ消費データを用いた都市のカーボンフットプリントの推定」	9
国際経済学セミナー				セミナー計 243
4/15	木本 遼	慶応義塾大学・博士後期課程	"Exporting and Labor Biased Technology Change: Evidence from Chilean Manufacturers"	22
5/27	武田 航平	Ph.D. candidate, London School of Economics and Political Science	"On the Geography of Structural Transformation and Inequality"	26
6/17	谷口 美南	Research assistant/Ph.D. candidate, LMU Munich	"What is the impact of EU enlargement on labor markets?: Estimating the effect of labor supply shock with a discrete choice model"	26
7/1	杉田 洋一	一橋大学・准教授	"The Impacts of AI, Robots, and Globalization on Labor Markets: Analysis of a Quantitative GeneralEquilibrium GVC Model"	31
10/28	Alex Coad	早稲田大学・教授	"Positioning firms along the capabilities ladder"	33
11/4	牧岡 亮	北海道大学・講師	"The Values of Face-to-Face Communication in Exports: A Case of Canton Fair during the SARS Epidemic"	29
12/2	René Belderbos	Full Professor, KU Leuven	"Organizational Strategies for Knowledge Appropriation of Codified and Complex Technologies"	32
1/20	川窪 悦章	Ph.D. candidate, London School of Economics and Political Science	"Supply Chain Dynamics"	25
3/16	田中 清泰	ジェトロ・アジア経済研究所・研究員	"The European Union's safeguard for rice imports from Cambodia and Myanmar"	19
	笹原 彰	慶応義塾大学・准教授	"A long-run transition in Japan's internal value chains"	
	伊藤 匡	学習院大学・教授	"Third country effects of Trump tariffs: Which countries benefited from Trump's trade war?"	

Seminar series

2021年度 経済学研究科公認セミナー開催一覧（セミナー名五十音順）

日付	講師（敬称略）	所属・職位	演題	参加人数(人)
史的分析セミナー				セミナー計 160
6/30	酒井 健	東北大学・准教授	"Changing the uses of history strategically: A case of a Japanese company"	37
	Wang Tao	京都大学・准教授	"Navigating the maze: How professionals manage interdependence"	
7/19	小堀 聡	京都大学・准教授	「高度成長期日本の原子力政策：軽水炉導入と動燃設立」	20
10/18	竹下 伸一	京都大学・博士後期課程	「塗料ビジネスにおけるアジア企業との日系合併企業」	19
	日隈 美朱	名古屋経済大学・准教授	「水産物流通の形成——愛知海苔における等級付けおよび検査員制度を事例に」	
11/26	見浪 知信	桃山学院大学・講師	「戦間期日本における貿易商の業態分析—内商・外商による雑貨輸出への参入条件に着目して—」	11
11/27	Cong Liu	Jinan University	"The Impact of WWI on Chinese Textile Industry: Was the World's Trouble China's Opportunity?"	19
	Andrew Smith	University of Liverpool	"Why Business Historians Need to Draw on Constructivist IR Theory to Understand Multinational Business Strategy During the First World War"	
	Eiichi Morohashi	Keio University	"Trading with the Enemy: Japanese Experiences during WW1"	
	Chenxiao Xia	Osaka University	"Realism, Economic Nationalism, Hegemonic War: German Trading Firms in Japan during WW1"	
	*	*	Discussion: "Understand WW1 Using Economic Theory, IR, and History"	
1/5	堀内 義隆	三重大学・准教授	「拙著『緑の工業化』の意義と限界」	18
	都留 俊太郎	京都大学・助教	「コメント」	
1/25	竹内 祐介	東京都立大学・准教授	「復興期日本の輸送計画」	17
1/28	金 容度	法政大学・教授	「『日本の企業間取引』によせて」	19
	田中 彰	京都大学・教授	「『日本の企業間取引』をめぐる：総論」	
	磯村 昌彦	名古屋外国語大学・准教授	「『日本の企業間取引』をめぐる：鉄鋼・自動車を中心に」	
史的分析セミナー				セミナー計 88
9/21	柴田 章久	京都大学・教授	「マクロ研のあゆみ」	61
	桃田 朗 橋本 賢一	立命館大学・教授 神戸大学・教授	"Long Life-span and Optimal Recurrent Education" 桃田 朗 座長：橋本 賢一	
	瀧井 克也 安井 大真	大阪大学・教授 京都大学・准教授	"The Effect of Initial Job in Japanese Labor Market" 瀧井 克也 座長：安井 大真	
11/19	松村 浩平	日本銀行	「金融システムレポートについて」	27

KAKENHI Adoption status

令和4年度 科研費採択状況

経済学研究科 科研費応募・内定・決定データ (H25-R4)

■新規・応募内定

参照：【H25-H27】科研費応募・内定・決定データ（教職員ポータル）
2016.6改訂版確認、変更なし
【H28】20160408（経済）科研費申請・採択状況（URA室）
【H28】科研申請採択者データ（URA室）
【H29】20170601 KAKEN_GSEconomics（URA室）
20170908（改定）H29科研費内定データ（URA室）
経営管理大学院データ（外部資金掛）
【H30】2018.4 科研費応募採択状況 経済・経営管理大学院データ（外部資金掛）
公共政策大学院・国際高等教育院データ（外部資金掛）
地球環境学履データ（理系 共通・補助金掛）
20180704（改定）科研費採択状況 経済・経営管理大学院データ（外部資金掛）
【R1】2019.4（経済）（経営）科研費応募・内定情報（外部資金掛）
20190705（改定）科研費内定一覧（KAKENデータベース）
【R2】20200323科研費応募（外部資金掛）
R3_科研費応募・採択状況（経済・経営）（外部資金掛）
R4_科研費応募採択状況（経済・経営）（外部資金掛）

総合計			
	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)
H25	17	9	52.9%
H26	18	10	55.6%
H27	27	13	48.1%
H28	22	11	50.0%
H29	23	11	47.8%
H30	26	10	38.5%
R1	25	9	36.0%
R2	23	14	60.9%
R3	10	6	60.0%
R4	18	13	72.2%

※R4 経営管理大学院（経済教員協参加）の応募5、内定3を含めると 16/23（69.6%）

	特別推進研究			新学術領域研究(研究領域提案型) R2より学術変革領域研究(A)に区分継続			学術変革領域研究(B) R2より新設			国際共同研究強化(H27年度新設) H30より(B)の新設に伴い、(A)に名称変更		
				学術変革領域研究(A)						国際共同研究強化 (A)		
	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)
H25												
H26												
H27										1	1	100.0%
H28												
H29												
H30												
R1												
R2												
R3				1	0	0.0%						
R4				1	0	0.0%						

※R4経営管理大学院（経済教員協参加）⇒

※応募0、内定0を含めると0/1（0.0%）

	基礎研究 (S)			基礎研究 (A)			基礎研究 (B) 「特設分野」は7月下旬交付内を含む H27新規採択より一部基金を廃止し補助金 (ただし、特設分野は基金)			基礎研究 (C) 「特設分野」は7月下旬交付内を含む 10月の追加採択（一般）を含む			挑戦的萌芽研究 H29より挑戦的萌芽研究を廃止し、 挑戦的研究(開拓・萌芽)を新設 挑戦的研究(萌芽)		
	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)
H25							5	2	40.0%	7	5	71.4%	1	1	100.0%
H26							8	3	37.5%	5	5	100.0%	1	0	0.0%
H27				1	1	100.0%	6	1	16.7%	7	5	71.4%	3	1	33.3%
H28							6	2	33.3%	11	6	54.5%	3	1	33.3%
H29				1	0	0.0%	7	1	14.3%	10	7	70.0%	2	0	0.0%
H30	1	0	0.0%	1	0	0.0%	3	0	0.0%	11	8	72.7%	3	1	33.3%
R1	1	0	0.0%	1	0	0.0%	6	4	66.7%	8	2	25.0%	2	1	50.0%
R2	1	0	0.0%	1	0	0.0%	3	1	33.3%	9	8	88.8%	1	0	0.0%
R3				2	0	0.0%	1	1	100.0%	2	1	50.0%	1	1	100.0%
R4				3	1	33.3%	3	2	66.7%	2	2	100.0%	0	0	0.0%

※R4経営管理大学院（経済教員協参加）⇒

※応募1、内定0を含めると1/4（25.0%）

※応募1、内定1を含めると3/4（75.0%）

※応募0、内定0を含めると2/2（100.0%）

※応募2、内定1を含めると1/2（50.0%）

	若手研究 (A) H27新規採択より一部基金を廃止し補助金 H30より若手研究(A)の新規公募は停止、 「基礎研究」種目群等に移行			若手研究 (B) H30より「若手研究」と名称変更			研究活動スタート支援 (8月下旬交付内定) R1より基金化			研究成果公開促進費(学術図書)			奨励研究		
	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)	応募件数 (A)	内定件数 (B)	採択率 (B/A)
H25				2	1	50.0%	1	0	0.0%				1	0	0.0%
H26				4	2	50.0%									
H27				6	3	50.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%			
H28				2	2	100.0%									
H29	1	1	100.0%	2	2	100.0%									
H30				7	1	14.2%									
R1				6	2	33.3%				1	0	0.0%			
R2				8	5	62.5%									
R3				3	3	100.0%									
R4				7	6	85.7%	2	2	100.0%						

※R4経営管理大学院（経済教員協参加）⇒

※応募1、内定1を含めると7/8（87.5%）

※応募0、内定0を含めると2/2（100.0%）

KAKENHI Adopter list

令和4年度 科研費採択者一覧

経済学研究科

(参照) KAKENデータベース

研究者名	職位	研究種目	研究課題タイトル	領域番号	配分区分	研究分野 (審査区分)	配分	研究機関・年度
諸富 徹	教授	基礎研究(A)	再生可能エネルギー市場統合へ向けた電力システム設計～理論的・実証的・国際比較分析	22H00572	補助金	環境保全対策およびその関連分野	39,000千円 (直接経費: 30,000千円、間接経費: 9,000千円) 2022年度: 13,910千円 (直接経費: 10,700千円、間接経費: 3,210千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
依田 高典	教授	基礎研究(B)	リバタリアンかバナーナリズムかそれとも両方か: 経験的社会厚生最大化メソッド	22H00842	補助金	経済政策関連	14,040千円 (直接経費: 10,800千円、間接経費: 3,240千円) 2022年度: 5,590千円 (直接経費: 4,300千円、間接経費: 1,290千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
黒澤 隆文	教授	基礎研究(B)	産業ダイナミクスのグローバル経済史—「産業」の異質性・輪郭とその歴史的動態	22H00865	補助金	経済史関連	17,030千円 (直接経費: 13,100千円、間接経費: 3,930千円) 2022年度: 2,990千円 (直接経費: 2,300千円、間接経費: 690千円)	京都大学 2022-04-01 - 2027-03-31
佐々木 啓明	教授	基礎研究(C)	自動化技術の進展が経済社会に与える影響—2部門成長モデルを用いた分析—	22K01476	基金	経済政策関連	4,290千円 (直接経費: 3,300千円、間接経費: 990千円) 2024年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円) 2023年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円) 2022年度: 1,690千円 (直接経費: 1,300千円、間接経費: 390千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
馬 騰	特定講師	基礎研究(C)	新電力の地域経済参加意欲および地域経済循環促進効果に関する計量経済学的分析	22K12482	基金	環境政策および環境配慮型社会関連	4,290千円 (直接経費: 3,300千円、間接経費: 990千円) 2024年度: 1,430千円 (直接経費: 1,100千円、間接経費: 330千円) 2023年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円) 2022年度: 1,560千円 (直接経費: 1,200千円、間接経費: 360千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
若島 史	講師	若手研究	東アジア農村における日常生活のなかの近代化と冷戦 原水爆禁止運動と家電に着目して	22K18123	基金	ジェンダー関連	2,860千円 (直接経費: 2,200千円、間接経費: 660千円) 2026年度: 520千円 (直接経費: 400千円、間接経費: 120千円) 2025年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円) 2024年度: 780千円 (直接経費: 600千円、間接経費: 180千円) 2023年度: 260千円 (直接経費: 200千円、間接経費: 60千円) 2022年度: 1,170千円 (直接経費: 900千円、間接経費: 270千円)	京都大学 2022-04-01 - 2027-03-31
鈴木 寛之	講師	若手研究	管理会計と大衆文化の相互関係に関する定性的研究	22K13512	基金	会計学関連	4,680千円 (直接経費: 3,600千円、間接経費: 1,080千円) 2026年度: 650千円 (直接経費: 500千円、間接経費: 150千円) 2025年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円) 2024年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円) 2023年度: 1,300千円 (直接経費: 900千円、間接経費: 400千円) 2022年度: 780千円 (直接経費: 600千円、間接経費: 180千円)	京都大学 2022-04-01 - 2027-03-31
杜 依濠	特定講師	若手研究	再生可能エネルギー市場統合へ向けた卸電力市場のあり方	22K18067	基金	環境政策および環境配慮型社会関連	2,730千円 (直接経費: 2,100千円、間接経費: 630千円) 2024年度: 650千円 (直接経費: 500千円、間接経費: 150千円) 2023年度: 650千円 (直接経費: 500千円、間接経費: 150千円) 2022年度: 1,430千円 (直接経費: 1,100千円、間接経費: 330千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
ZHOU YU	特定講師	若手研究	School Choice with Crowding Education Resources: Theory and Experiments	22K13364	基金	理論経済学関連	4,160千円 (直接経費: 3,200千円、間接経費: 960千円) 2024年度: 1,430千円 (直接経費: 1,100千円、間接経費: 330千円) 2023年度: 1,560千円 (直接経費: 1,200千円、間接経費: 360千円) 2022年度: 1,170千円 (直接経費: 900千円、間接経費: 270千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
ZHANG TUO	特定助教	若手研究	Renewable Penetration, Integration Costs and the Roles of the Power Grids: A Spatial Econometric Analysis for Prefectures in Japan	22K13387	基金	経済政策関連	4,550千円 (直接経費: 3,500千円、間接経費: 1,050千円) 2023年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円) 2022年度: 3,250千円 (直接経費: 2,500千円、間接経費: 750千円)	京都大学 2022-04-01 - 2024-03-31
羽田 祥子	特定助教	若手研究	スタートアップから見たオープンイノベーションマネジメント	22K13477	基金	経営学関連	1,950千円 (直接経費: 1,500千円、間接経費: 450千円) 2024年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円) 2023年度: 780千円 (直接経費: 600千円、間接経費: 180千円) 2022年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
岩瀬 祐介	講師	研究活動 スタート支援	マッチング理論における相互依存的な意思決定	22K20162	基金	経済学、経営学およびその関連分野	2,470千円 (直接経費: 1,900千円、間接経費: 570千円) 2023年度: 1,170千円 (直接経費: 900千円、間接経費: 270千円) 2022年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円)	京都大学 2022-08-31 - 2024-03-31
羽村 靖之	講師	研究活動 スタート支援	多次元データの情報を有効に組み合わせるための手法に関する研究	22K20132	基金	経済学、経営学およびその関連分野	2,080千円 (直接経費: 1,600千円、間接経費: 480千円) 2023年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円) 2022年度: 1,040千円 (直接経費: 800千円、間接経費: 240千円)	京都大学 2022-08-31 - 2024-03-31

経営管理研究部

研究者名	職位	研究種目	研究課題タイトル	領域番号	配分区分	研究分野 (審査区分)	配分	研究機関・年度
若林 直樹	教授	基礎研究(B)	コロナ禍の経営危機下での中小企業の生存と組織レジリエンスの組織能力の総合分析	22H00878	補助金	経営学関連	14,430千円 (直接経費: 11,100千円、間接経費: 3,330千円) 2022年度: 5,200千円 (直接経費: 4,000千円、間接経費: 1,200千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
天野 良明	講師	若手研究	合併アノマリーと会計情報に関する定量的研究	22K13511	基金	会計学関連	4,680千円 (直接経費: 3,600千円、間接経費: 1,080千円) 2024年度: 1,430千円 (直接経費: 1,100千円、間接経費: 330千円) 2023年度: 1,430千円 (直接経費: 1,100千円、間接経費: 330千円) 2022年度: 1,820千円 (直接経費: 1,400千円、間接経費: 420千円)	京都大学 2022-04-01 - 2025-03-31
関口 倫紀	教授	挑戦的研究(萌芽)	アルゴリズムック・マネジメントと働く人々の思考・能力・行動の変容に関する研究	22K18528	基金	経済学、経営学およびその関連分野	6,240千円 (直接経費: 4,800千円、間接経費: 1,440千円) 2024年度: 2,600千円 (直接経費: 2,000千円、間接経費: 600千円) 2023年度: 2,340千円 (直接経費: 1,800千円、間接経費: 540千円) 2022年度: 1,300千円 (直接経費: 1,000千円、間接経費: 300千円)	京都大学 2022-06-30 - 2025-03-31

SCOPUS

経済学研究科教書誌データ (2021年度)

教員名	役職	本務部局	文献タイトル	著者名一覧	文献タイプ	出版物名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
佐々木 啓明	教授	経済学 研究科	Thirlwall's law, uneven development, and income distribution	Sasaki, H.	Article	Metroeconomica	72	3	592	611
			Non-renewable resources and the possibility of sustainable economic development in an economy with positive or negative population growth	Sasaki, H.	Article	Bulletin of Economic Research	73	4	704	720
矢野 剛	教授	経済学 研究科	The Financial Crisis in 2008, the Stimulus Package, and Distortion of Financial Intermediation in China: A Survival Analysis Approach	Shiraishi, M. Yano, G.	Article	Comparative Economic Studies	-	-	-	-
			Innovation Spillovers between Domestic Firms in China	Yano, G. Shiraishi, M.	Article	Emerging Markets Finance and Trade	-	-	-	-
			Do 'zombie firms' emerge among private firms in China? A survival analysis approach that pays attention to the reception of trade credit	Shiraishi, M. Yano, G.	Article	Journal of Chinese Economic and Business Studies	19	1	1	34
			Anti-corruption, safety compliance and coal mine deaths: Evidence from China	Xu, G. Wang, X. Wang, R. Yano, G. Zou, R.	Article	Journal of Economic Behavior and Organization	188	-	458	488
IVINGS, Steven	准教授	経済学 研究科	Investigating the ukishima-maru incident in occupied japan: Survivor testimonies and related documents	Bull, J. Ivings, S.	Article	Asia-Pasific Journal: Japan Focus	19	19	-	-
高野 久紀	准教授	経済学 研究科	The poor receive less: Remittance behaviour of female migrants in Myanmar	Zhai, Y. Kono, H.	Article	Journal of International Development	33	5	910	926
遊喜 一洋	准教授	経済学 研究科	Modernization, social identity, and ethnic conflict	Yuki, K.	Article	European Economic Review	140	-	-	-
WANG, Tao	准教授	経済学 研究科	Place and corporate philanthropy: A systematic review	Mei, M.Q. Wang, T.	Article	International Journal of Management Reviews	23	3	376	393
周 愚 (Zhou, YU)	特定 講師	経済学 研究科	A characterization of the Vickrey rule in slot allocation problems	Zhou, YU Chun, Youngsub Serizawa, Shigehiro	Article	International Journal of Economic Theory	18	1	38	49
杜 依濠	特定講師	経済学 研究科	Impact of electricity pricing strategy on residential energy consumption decisions in China: empirical evidence from a household survey	Du, Y. Ma, T.	Article	Journal of Environmental Economics and Policy	-	-	-	-
馬 騰	特定講師	経済学 研究科	Impact of electricity pricing strategy on residential energy consumption decisions in China: empirical evidence from a household survey	Du, Y. Ma, T.	Article	Journal of Environmental Economics and Policy	-	-	-	-
ZHANG, Tuo	特定 助教	経済学 研究科	The impact of the COVID-19 pandemic on ambient air quality in China: A quasi-difference-in-difference approach	Zhang, T. Tang, M.	Article	International Journal of Environmental Research and Public Health	18	7	-	-
関口 倫紀	教授	経営管理 大学院	Work-Related Psychosocial Risk Factors and Coping Resources during the COVID-19 Crisis	Rigotti, T. Yang, L.-Q. Jiang, Z. Newman, A. De Cuyper, N. Sekiguchi, T.	Editorial	Applied Psychology	70	1	3	15
			How supervisors respond to employee voice: an experimental study in China and Japan	Yang, Y. Li, J. Sekiguchi, T.	Article	Asian Business and Management	20	1	1	31
			One way or another? An international comparison of expatriate performance management in multinational companies	Bader, A.K. Bader, B. Froese, F.J. Sekiguchi, T.	Article	Human Resource Management	60	5	737	752
			Expatriate justice and host country nationals' work outcomes: Does host country nationals' language proficiency matter?	Peltokorpi, V. Sekiguchi, T. Yamao, S.	Article	Journal of International Management	27	1	-	-

SCOPUS

経済学研究科教書誌データ (2021年度)

教員名	役職	本務部局	文献タイトル	著者名一覧	文献タイプ	出版物名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
関口 倫紀 (続き)	教授	経営管理 大学院	Identity leadership, employee burnout and the mediating role of team identification: Evidence from the global identity leadership development project	van Dick, R. Cordes, B.L. Lemoine, J.E. Steffens, N.K. Haslam, S.A. Akfirat, S.A. Ballada, C.J.A. Bazarov, T. Aruta, J.J.B.R. Avanzi, L. Bodla, A.A. Bunjak, A. Černe, M. Dumont, K.B. Edelman, C.M. Epitropaki, O. Fransen, K. García-Ael, C. Giessner, S. Gleibs, I.H. Godlewska-Werner, D. González, R. Kark, R. Gonzalez, A.L. Lam, H. Lipponen, J. Lupina-Wegener, A. Markovits, Y. Maskor, M. Molero, F. Monzani, L. Leon, J.A.M. Neves, P. Orosz, G. Pandey, D. Retowski, S. Roland-Lévy, C. Samekin, A. Schuh, S. Sekiguchi, T. Song, L.J. Story, J. Stouten, J. Sultanova, L. Tatachari, S. Valdenegro, D. van Bunderen, L. Van Dijk, D. Wong, S.I.	Article	International Journal of Environmental Research and Public Health	18	22	-	-
			Thrown off track? Adjustments of Asian business to shock events	Horn, S. Sekiguchi, T. Weiss, M.	Editorial	Asian Business and Management	20	4	435	455
			What do we know about the internationalization of Asian business groups? A systematic review and future research agenda	Lee, J.Y. Colpan, A.M. Ryu, Y.-S. Sekiguchi, T.	Article	Asian Business and Management	-	-	-	-
			Organizational stress in contemporary Japan	Ohira, T. Fujimoto, T. Sekiguchi, T.	Chapter	Organizational Stress Around the World: Research and Practice	-	-	128	144
			The Role of Entrepreneurs' Empathy in New Venture Performance: The Mediating Effects of Entrepreneurial Orientation	Zhao, W. Lyu, S. Sekiguchi, T.	Article	Entrepreneurship Research Journal	-	-	-	-
			An exploratory study of women's work values in the Chinese context: a grounded-theory approach	Zhang, Z. Sekiguchi, T. Li, J.	Article	Journal of Asia Business Studies	-	-	-	-
			Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan	Ebisuya, A. Sekiguchi, T. Hettiarachchi, G.P.	Article	Asian Business and Management	-	-	-	-
COLPAN, Asli	教授	経営管理 大学院	What do we know about the internationalization of Asian business groups? A systematic review and future research agenda	Lee, J.Y. Colpan, A.M. Ryu, Y.-S. Sekiguchi, T.	Article	Asian Business and Management	-	-	-	-
山田 仁一郎	教授	経営管理 大学院	A systematic bibliometric review of the strategic entrepreneurship domain	Thomas, G.H. Douglas, E.J. Yamada, J.-I.	Review	Management Research Review	-	-	-	-

Discussion Papers

ディスカッションペーパー (2021年度)

ディスカッション・ペーパーは、2015年9月まで、経済学研究科附属プロジェクトセンターの成果の一部として、発行してまいりました。今後は、経済学研究科のワーキングペーパーとして、ディスカッション・ペーパーの名称を継承しながら発行してまいります。

E-15-006 (J-15-001) まで: 経済学研究科附属プロジェクトセンター 発行
E-15-007 (J-15-002) 以降: 経済学研究科 発行

English

- E-21-001 Takeshi SAKADE
“Gewalt, Gold, God (Aircraft Industry, International Debt, Democracy in Cyberspace)-World History from the Perspective of Weapons “
- E-21-002 Akihiro NAKAMURA, Takanori IDA
“Delineating zero-price markets with network effects:An analysis of free messenger services “
- E-21-003 Takanori ADACHI, Michal FABINGER
“Pass-Through and the Welfare Effects of Taxation under Imperfect Competition: A General Analysis “
- E-21-004 Mark J. TREMBLAY, Takanori ADACHI, Susumu SATO
“Cournot Platform Competition with Mixed-Homing “
- E-21-005 Takanori ADACHI, Michal FABINGER
“A Sufficient Statistics Approach for Welfare Analysis of Oligopolistic Third-Degree Price Discrimination “
- E-21-006 William PHAN, Ryan TIERNEY, Yu ZHOU
“Crowding in School Choice “
- E-21-007 Yoko KONISHI, Se-il MUN, Yoshihiko NISHIYAMA, Masahiro KINOMURA
“Transportation Time and Freight Cost “
- E-21-008 Tomoya KAZUMURA
“When can we design efficient and strategy-proof rules in package assignment problems? “
- E-21-009 Takanori ADACHI, Susumu SATO, Mark J. TREMBLAY
“Platform Oligopoly with Endogenous Homing: Implications for Mergers and Free Entry “
- E-21-010 Mitsuo INADA, Naoto JINJI
“The Impact of Policy Uncertainty on Foreign Direct Investment: Micro-Evidence from Japan’ s International Investment Agreements “

Discussion Papers

ディスカッションペーパー (2021年度)

Japanese

J-21-001 中村彰宏, 依田高典
” ネットワーク効果を伴う無料市場の画定: メッセンジャー・サービスの表明選好法 ”

J-21-002 徳賀芳弘, 宮宇地俊岳, 山下知晃, 米山正樹, 浅見裕子
” のれんの会計処理に関する調査とその分析 — 作成者・利用者・監査人の回答の特徴と比較 — ”

J-21-003 木下信, 佐藤真行, 依田高典
” ベイズ確率改定と感染予防行動: 日本のCOVID-19感染第一波のエビデンス ”

J-21-004 石原卓典, 佐々木周作, 木戸大道, 依田高典
” 強制か選択か?: リベート施策と節電行動のフィールド実験 ”

J-21-005 井川佳実, 若林直樹
” 中小企業における知識移転と境界活動のマネジメント ”

京都大学大学院経済学研究科
附属プロジェクトセンター
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
法経済学部東館 305号
TEL.075-753-3443
2023年1月発行

